

今月のトピックス

- 1 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が継続しています。
- 1 今シーズン初の学級閉鎖(小学校)があり、インフルエンザ A 香港型が検出されています。

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

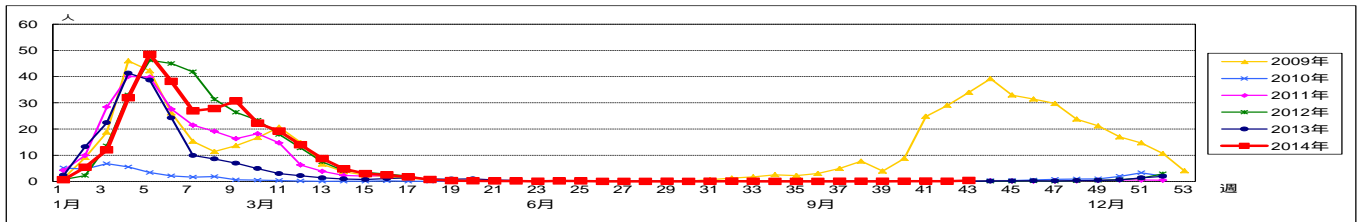
腸管出血性大腸菌感染症	16 件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件
腸チフス	1 件	急性脳炎	4 件
エキノкокス症	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
デング熱	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
レジオネラ症	7 件	侵襲性肺炎球菌感染症	2 件
レプトスピラ症	1 件	梅毒	2 件
アメーバ赤痢	6 件	風しん	1 件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 計 16 件の報告がありました。同一の原因による集団感染などはありませんでしたが、家族内感染が 2 件、HUS を発症したものが 1 件ありました。季節も移り変わり気温も低くなってきましたが、まだ報告もあり、引き続き注意が必要です。肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにすることが大切です。
- 2 腸チフス: 1 件の報告がありました。渡航先(ミャンマー)での感染が推定されています。
- 3 エキノкокス症: 1 件の報告がありました。患者は以前北海道の牧場で勤務していたことがあり、北海道での感染が推測されています。国の感染症サーベイランスシステム(NESID)で検索できる 2006 年以降では、横浜市で届出があったのは初めてです。
- 4 デング熱: 2 件(海外感染例 1 件、国内感染例 1 件)の報告があり、国内例では明治神宮で蚊に刺されたエピソードがありました。横浜市内の医療機関からは、10 月 24 日までの時点で 8 件の国内感染例の届出(うち 2 件は市外在住)があり、すべて都内での感染が疑われていました。全国では 2014 年 8 月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、計 159 名の国内感染例が報告されていますが、10 月 7 日に発症した東京都の症例以降報告はありません。デング熱は通常 3~7 日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「[デング熱診療ガイドライン\(第 1 版\)について\(厚生労働省\)](#)」を参照してください。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型 7 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 6 レプトスピラ症: 1 件の報告がありました。西表島での水系感染が推定されています。
- 7 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 6 件の報告がありました。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 平成 26 年 9 月 19 日から五類感染症になりました。3 件の届出があり、1 件は胆管炎の症例で胆汁から *E.aerogenes*、もう 1 件は皮膚炎で真皮層から *K.oxytoca*、残るもう 1 件は肺炎で喀痰から *E.cloacae* が検出されています。いずれも MEPM 耐性でした。
- 9 急性脳炎: 4 件の報告(生後 13 日、1 ヶ月、4 ヶ月、1 歳 10 ヶ月児)がありました。病原体検索中です。この 4 件の疫学的なつながりは確認されていません。2014 年は、10 月 24 日までに既に 14 件の報告があります。2013 年 5 件、2012 年 8 件、2011 年 7 件と、過去 3 年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 60 歳代女性の報告が 1 件あり、血清型は A 群でした。感染原因感染経路は不明です。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件の報告があり、国内での同性間性的接触による感染でした。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症: 2 件の報告(70 歳代、50 歳代)があり、ともに予防接種歴は確認できませんでした。
- 13 梅毒: 早期顕症梅毒 1 件、無症候期 1 件の報告があり、ともに国内の異性間性的接触による感染です。
- 14 風しん: 30 歳代男性の臨床診断例(予防接種歴無し)が 1 件ありました。

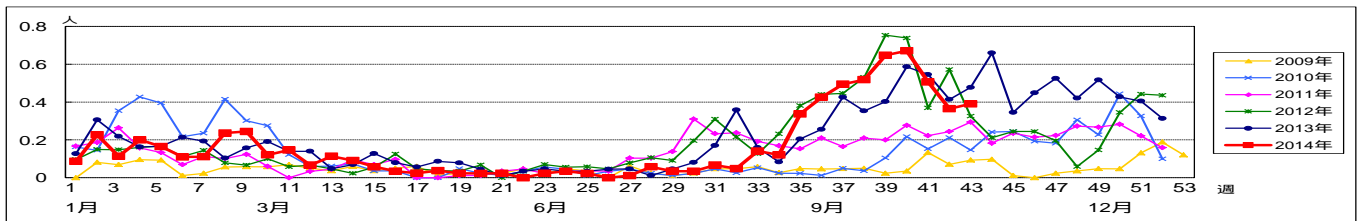
定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 39 週	9 月 22 日 ~ 28 日
第 40 週	9 月 29 日 ~ 10 月 5 日
第 41 週	10 月 6 日 ~ 12 日
第 42 週	10 月 13 日 ~ 19 日
第 43 週	10 月 20 日 ~ 26 日

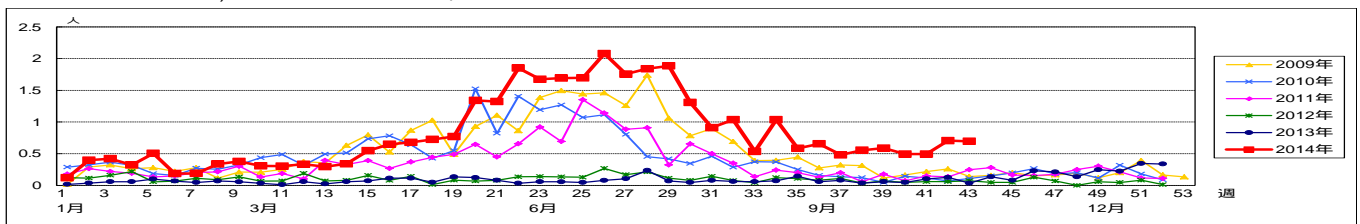
- 1 **インフルエンザ**: 第 43 週は市全体で定点あたり 0.34 と落ち着いていますが、第 43 週には市内小学校で今シーズン初めての学級閉鎖がありました。学童から得られた検体から A/H3N2(A 香港)型インフルエンザウイルスが検出されています。第 43 週は全インフルエンザ定点から 43 名の患者報告があり、その内迅速キットを実施して陽性だった 37 名はすべて A 型でした。



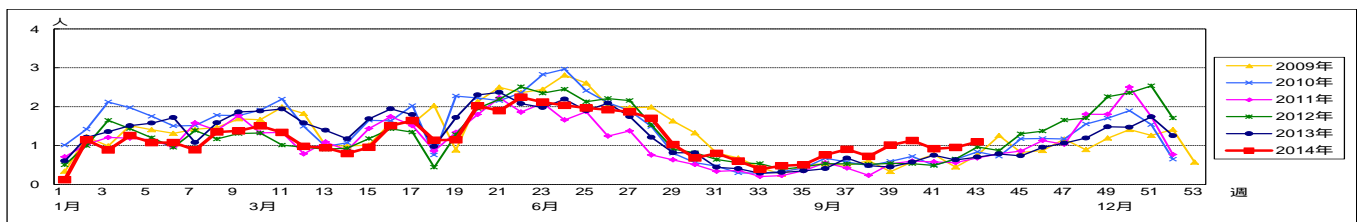
- 2 **RS ウイルス感染症**: 第 33 週頃から報告が増加し、第 40 週は市全体で定点あたり 0.67 と、今年に入り最多になりました。第 43 週は 0.39 とやや落ち着いてきましたが、まだ注意が必要です。



- 3 **伝染性紅斑**: 第 26 週の市全体で定点あたり 2.08 をピークに徐々に報告数は減少してきましたが、第 35 週付近以降から横ばいが続いています。第 43 週は泉区 2.75 で警報レベル(警報発令基準値: 2.00、警報解除基準値: 1.00)が継続しています。



- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 43 週は市全体で定点あたり 1.10 です。例年年末にかけて漸増する傾向があるので、注意が必要です。



- 5 **性感染症**: 9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 9 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 4 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 15 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 11 件、女性が 1 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 39 週 1.00、第 40 週 0.33、第 41 週 1.25、第 42 週 0.25 第 43 週 0.00 と、やや報告の多い週が見られています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>